

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

福澤保育センター

横浜市緑区東本郷 4-25-14

運営主体: 社会福祉法人 久遠園

● 実施概要	1ページ
● 総合評価 (評価結果についての講評)	2~4ページ
● 評価領域ごとの特記事項	5~6 ページ
● 分類・項目別評価結果	7~19 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	20~27ページ
● 利用者本人調査分析	28~30 ページ
● 事業者コメント	31ページ

公表日: 2016 年 4 月 7 日

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	福澤保育センター（保育所）		
報告書作成日	2016年2月23日	評価に要した期間	7ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2015年7月30日～2015年11月18日	① 職員会議で趣旨、記入の仕方を園長、主任が説明し、職員一人一人が記入した。 ② 職員会議で一項目ずつ意見交換した。分からない点は担当者、園長等に確認し、クラスミーティングで話し合った。 ③ 職員会議で話し合い、一つにまとめた。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2015年11月30日～2015年12月18日	① 全園児の保護者（165世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日：第1日 2016年1月19日 第2日 2016年1月22日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：2～5歳児クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：書類調査。園長に面接調査。 [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：各クラスで園児と一緒に食べながら、保育観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名、主任に個別に面接調査。 その後、園長に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日：第1日 2016年1月19日 第2日 2016年1月22日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

福澤保育センターは JR 横浜線鴨居駅から歩いて 18 分、あるいはバス停「三菱公園」から歩いて 3 分ほどの住宅街の中にあります。隣接する東本郷公園を始めとして、周囲には自然豊かな大きな公園がたくさんあります。

福澤保育センターは昭和 52 年（1977 年）4 月に社会福祉法人久遠園によって設立されました。運営法人は他に横浜市内で 2 園保育園を運営しています。

地上 2 階、地下 1 階の園舎は築 40 年近くになりますが、設備や建物の修繕がしっかり行われ、清掃も行き届いています。1 階には日当たりの良い廊下があり、子どもたちの交流の場となっています。隣には 2 階建ての別館があります。遊具や砂場が設置された園庭は広く、桜などの樹木や季節の草花が植えられていて、プールもあります。

定員は 181 名（0 歳児～5 歳児）、開園時間は平日は 7：00～20：00、土曜日は 8：30～15：00 です。

法人理念は「健康で心豊かな子を育成することに尽くし、社会に貢献する」「常に保育の向上に努める」、園の保育の基本方針として、「施設を利用する子どもの「安心」「安全」「健康」を全てに優先する」「『ほめて、ほめて、さとす』叱らない保育を実践する」を掲げています。

◆ 高く評価できる点

1、恵まれた自然の中、子どもたちは思いっきり身体を動かし、のびのびと園生活を楽しんでいます

定員は 181 名と園児の数は多いですが、各クラスを 2 グループに分け小さな集団での保育を実践しています。乳児はさらに 4、5 名の小グループに分け、落ち着いて活動できるようにしています。

保育士は子どもの声に耳を傾け、子どもの意向を丁寧に確認しています。子どもの意向に応じることが難しい場合でもいったんは受け止め、子どもが納得できるように説明しています。このような働きかけの結果、子どもたちは言葉や態度で自分の思いを保育士にしっかりと伝えることができています。

広い園庭や自然豊かな公園では、子どもたちはたくさん身体を動かしています。マラソンやかけっこで思いっきり走り回ったり、芝生の斜面を転がったり、縄跳びをしたりしています。友だちとの関わりも盛んで、鬼ごっこやかくれんぼ、ドッジボールなどルール性のある遊びも人気です。また、落ち葉を友だちとかけあったり、氷の上を滑ったり、段ボールを使って雪の上のそり滑りをしたりと、季節の自然を楽しんでいます。異年齢の関わりもあり、園庭では、年上の子どもが年下の子どもにおもちゃや場所を譲ったり、さりげなく手を貸したり、年下の子どもが年上の子どもの真似をしてジャングルジムや鉄棒に挑戦する姿を見ることができました。

また、外部講師による体操、剣道、リトミック、絵画などを実施し、様々な経験を通して、子どもが自分の得意なことを見つけ、自己肯定感を感じられるように働きかけています。

このように元気な子どもたちですが、絵本読みなどの時には集中して取り組むことができます。観察時には、剣道の時間に正座して外部講師の話の聞いている姿を見ることができました。

2、保育士の育成に力を入れています

園では理念に「常に保育の向上に努めます」を掲げ、保育士の育成に力を入れています。1年目研修、2年目研修、3年目研修、リーダー研修などの経験年数ごとの園内研修を実施し、保育士が経験に応じたスキルや保育の視点を身に付けられるようにしています。リーダー格の保育士が職員会議の司会をする、2年目の保育士が「報・連・相」の実践として議事録をまとめる、3年目の保育士が地域担当を務めるなどの役割を課し、研修の成果を実践で確認できるように工夫しています。また、ノロウィルス、アレルギーなどの保健研修を全職員対象に行っています。

全職員対象のグループ別勉強会では、職員が課題と感ずることをテーマに、職種を超えてグループを作り研究しています。研究の成果はカンファレンス発表会で共有し、4・5歳児廊下の異年齢の交流スペースの設置、保育室のレイアウトなど、保育の現場で活かしています。また、ベテラン職員による保育課程研究会では、保育課程に沿って保育が実践されているかを検証しています。

このように、園内研修や委員会を通し、職員が経験や能力に応じたスキルを計画的に身につけられるようにしています。

3、地域との交流を通し、子どもたちは様々なことを学んでいます

園では地域との共存を重要と位置づけ、地域貢献を行うとともに、子どもたちが地域と交流できる機会を多数用意しています。

近隣の公園に園が担当する花壇スペースがあり、子どもたちが花苗の植え付けや水やりなどを年間を通して行っています。また、園独自の取り組みとして、小学校3年生以上の夏休み限定ボランティアを受け入れ、園児と遊んでもらっています。敬老の日には、5歳児が高齢者の自宅訪問をして地域のお年寄りに喜ばれています。近所の保育園5園とのイベント企画、5歳児の学校訪問、高齢者施設訪問などの交流もあります。

また、地域のグラウンドを、週に1回利用しています。利用団体間の打ち合わせにより日時が決定しますが、園児の為に他団体が自発的に時間の融通をつけてくれる事などもあり、大変良好な地域交流の場となっています。

このように、園では子どもと地域との交流を様々な形で実践し、子どもが地域を知り、地域との交流から様々な経験を積めるようにしています。

◆ 独自に取り組んでいる点

1、全園児対象のカンファレンスなど、一人一人の子どもを大切にされた保育を実践しています

園では、全園児に対して個別の指導計画を作成しています。また、全園児対象にカンファレンスを実施しています。最低でも一人年一回は取り上げることとし、一人一人の発達の状況について話し合い、課題を抽出し、指導計画に反映しています。特に課題がない子どもについては、もっと園生活を楽しく過ごすためにはどのようにすれば良いか話し合っています。次回のカンファレンスで取り上げる子どもを前月に決め、記録を確認したり、保護者の意向を確認したり、職員の意見を聴取したりし、子どもの現状や発達段階を確実にとらえられるようにしています。

このような取り組みを通し、保育士は子ども一人一人の課題を把握し、それぞれに合わせた働きかけ

をしています。子どもの主張にはそれぞれの思いがあることをよく理解し、子どもの目線に立って子どもの考えを理解し受け止めています。保育士は、否定語ではなく前向きな肯定語で話しかけ子どもの気持ちを前向きにするように働きかけ、子どもが自己肯定感を感じられるように工夫していて、保育の基本方針にある「ほめて、ほめて、さとす」の実現をめざしています。

◆ さらなる取り組みが期待される点

1、職員間で意思統一を図るための取り組み

職員数が多いうえ、ベテランから若手まで幅広い年齢や経験の職員構成となっています。個々の個性や特技を生かした多様な保育を実践することができる半面、それぞれの保育観も様々で、ともすれば統一性に欠ける危険があります。

園でもこのことを認識し、職員間のコミュニケーションを密にして情報共有し、全ての職員が同じ対応が取れるよう様々な取り組みをしています。月1回の職員会議だけでなく、非常勤も参加する連絡会議を行い、全職員での情報共有を図っています。会議に参加しなかった職員には口頭で伝達するだけでなく、会議録を配布し周知しています。職員会議では出来るだけ多くの職員が発言するように働きかけ、職員意見の把握に努めています。

今後も職員間での意思統一を図るための取り組みを継続されることが期待されます。

2、保護者が園の理念、保育方針の理解を深めるための取り組みの工夫

年度初めに「〇〇ぐみ新学期のしおり」を作成してクラスごとの取り組みについて掲載し、保護者に配布しています。しおりには、年間計画、法人理念、保育の基本方針などが具体的に分かりやすく記載されています。また、年度初めのクラス懇談会で、園長が理念、基本方針について説明しています。

ただし、様々な情報が提供されているため、保護者が理解しにくくなっているため、保護者の分かりやすい言葉で簡潔に説明するなど、保護者の理解を深めるための取り組みの工夫が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・法人理念として「健康で心豊かな子を育成することに尽くし、社会に貢献する」「常に保育の向上に努める」、園の保育の基本方針として、「施設を利用する子どもの「安心」「安全」「健康」を全てに優先する」「『ほめて、ほめて、さとす』叱らない保育を実践する」を掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。理念・基本方針を玄関、保育室に掲示し、いつでも確認できるようにするとともに、入職時のオリエンテーション、職員会議、職員研修などで職員に周知しています。
- ・園では子どもの気持ちを考慮した言葉のかけ方について、職員会議で話し合っています。職員は否定語ではなく肯定語で話すことにより、子どもの気持ちを前向きにするような工夫を学び合っています。
- ・個人情報取り扱いに関するガイドラインは運営法人で定め、正規職員には新人研修で、非常勤職員及び派遣職員には園内のオリエンテーションで周知を図っています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・保育課程は、職員の意見を基に、保育課程委員会が中心となって前年度の保育課程を見直し、職員会議や連絡会議で協議し策定しています。
- ・小グループ保育を取り入れ子どもの集団を小さくすることで、保育士や子どもの声のトーンが下がり、ゆったりとした保育が展開できる効果が出ています。
- ・乳児・幼児ともに、クラスミーティングやカンファレンスで話し合い、全園児の個別指導計画を作成しています。
- ・全園児のカンファレンスを園長、主任、クラス担任、看護師などが参加し行っています。最低でも一人年一回は取り上げることとし、一人一人の発達状況について話し合い、課題を抽出し、指導計画に反映しています。
- ・絵画や制作などに使用する文具や素材を十分にそろえ、子どもたちが自由に表現できるように配慮しています。また、一人ずつの道具箱や縄跳び紐は個人で買い求めるのではなく、3歳から卒園までの期間、園が貸し出す形式をとっています。「きれいに使って、きれいに返す」という共同生活のルールを学ぶ機会とも捉え、子どもたちにこうした意味を伝えています。
- ・天気の良い日は毎日散歩を取り入れています。また、健康増進を目的として外部の専門講師による体操教室（3歳児クラスから）と剣道教室（4歳児クラスから）を取り入れるなど積極的に子どもの体力作りに臨んでいます。
- ・給食は外部の給食業者に委託しています。業者の管理栄養士と調理員が季節感のある手作りの給食とおやつを提供しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・苦情受付担当、第三者委員などを定め、懇談会で保護者に口頭で説明するとともに、玄関および廊下の掲示板に掲示し周知しています。意見箱を玄関に設置するとともに、クラス懇談会、行事後のアンケートなどで保護者の意見、要望を聞いています。
- ・健康診断は年2回の内科健診、年1回の心臓健診・歯科健診・耳鼻科健診・視聴覚検査・ぎょう虫検査、他に3歳児以上対象の尿検査を実施しています。全ての健診の結果は記録しそれぞれの個人記録ファイルにまとめています。
- ・築40年の園舎を清潔に保つために日々の清掃は職員だけでなく用務員がより丁寧に行っています。さらに専門業者による清掃を取り入れ、年間を通して計画的に徹底した園舎中の手入れを続けています。この努力により園舎は清潔に保たれています。
- ・事故やケガが発生した場合には、現場の状況・対応・原因等を記載する「事故報告書」と、直接的間接的な原因・改善を要する点・今後の取り組み等を記載する「再発防止のための事故報告書」の2通を作成し、職員会議や連絡会議で再発防止策を話し合っています。会議欠席者には議事録を配り、全職員で

「子どもを守る」姿勢を徹底しています。

4、地域との交流・連携

- ・地域の子育て支援ニーズを把握するために、幼保小教育交流事業での夏季合同研修会や合同授業の実施、「みどりっこまつり」・自治会・近隣他園等との会議参加やイベント・行事の検討等を行っています。
- ・入職3年目の職員を地域支援担当と決め、次年度の地域支援計画作成も含めた会議を年数回開催しています。
- ・地域への子育て支援サービスとして、一時保育・育児相談・交流保育・園庭開放・プール開放を行っています。地域住民に向けての保育講座は「つくって遊ぼう」「つくって食べよう」「プール指導」などの企画で実施しています。
- ・近隣の公園に園が担当する花壇スペースがあり、子どもたちが花苗の植え付けや水やりなどを年間を通して行っています。
- ・小中高校生の夏休み限定ボランティアを受け入れています。また小学校とは、5歳児の就学準備の交流があります。
- ・敬老の日には、5歳児が高齢者の自宅訪問をして地域のお年寄りに喜んでもらっています。


5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・運営法人のホームページがあり、園の基本方針・保育の様子・保育時間等の情報を提供しています。
- ・マニュアル「職員倫理について」で守るべき法・規範・倫理が明文化され、職員に周知しています。また、1年目研修で倫理について説明しています。
- ・ゴミの分別を子どもと一緒にいき、ゴミの減量化に努めています。省エネの取り組みとしては、夏場には窓を開け扇風機を活用する、ゴーヤカーテンなどがあります。ただし、環境についての考え方を明文化するまでには至っていません。
- ・保育士が課題ととらえていることについて、職種を越えてグループを作って研究するグループ別勉強会を実施しています。勉強会には看護師や非常勤職員も参加しています。
- ・理事会で決定した中長期的な方向性を踏まえ、年度ごとの事業計画を作成しています。理事会、運営会議では、時代の組織運営に備え、あらたな仕組みについて常に検討しています。


6、職員の資質向上の促進

- ・1年目、2年目、3年目、リーダー層など、経験や習熟度に応じた人材育成の計画を作成しています。年2回の主任との自己評価の面接で次期の目標設定をし、達成度を評価しています。自己評価は勤務評価と連動しています。
- ・研修担当保育士が主任と相談し、研修計画を作成しています。園内研修としては、1年目、2年目、3年目、リーダー研修などがあります。また、全職員を対象にアレルギーや嘔吐処理などの保健研修を実施しています。職員は、市や区などが主催するわらべうたあそび、障がい児保育、運動遊びなどの外部研修に参加しています。
- ・非常勤職員を含む全職員に「保育業務マニュアル」と「福澤保育センターの手引」を配布しています。
- ・業務にあたっては、必ず職員と非常勤職員を組み合わせています。保育では常勤、非常勤職員の区別はなく、非常勤職員もクラスミーティングやカンファレンスに参加しています。保健研修、グループ別勉強会には非常勤職員も参加しています。
- ・年2回、非常勤職員を含めた全職員が、一般常識、職業倫理、保育の実践、職員間の連携、管理能力(4年目以上)の各項目について自己評価をし、主任との面談で達成度の評価を受けています。
- ・研修計画に経験や能力に応じて求められる視点や役割を明記しています。ただし、職員に改めて説明することを行っていないので、職員の意識向上のためにも周知することが期待されます。
- ・職員の数が多く、幅広い年齢層や経験を持つ職員がいるので、職員会議や連絡会議で情報共有を図るとともに、それぞれの保育観を話し合い、お互いの良さや特技を活かせるよう配慮しています。職員会議などの場では職員が活発に発言し、意見交換することを大切にしています。

分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ←「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人理念として「健康で心豊かな子を育成することに尽くし、社会に貢献する」「常に保育の向上に努める」、園の保育の基本方針として、「施設を利用する子どもの「安心」「安全」「健康」を全てに優先する」「『ほめて、ほめて、さとす』叱らない保育を実践する」を掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。理念・基本方針を玄関、保育室に掲示し、いつでも確認できるようにするとともに、入職時のオリエンテーション、職員会議、職員研修などで職員に周知しています。保護者に対しては、クラスごとの「新学期のしおり」に記載し、クラス懇談会で園長が説明しています。 ・保育課程は、職員の意見を基に、保育課程委員会が中心となって前年度の保育課程を見直し、職員会議や連絡会議で協議し策定しています。毎月の保育課程委員会では、保育の現状、保育の基本方針や家庭の状況、子どもの様子などと保育課程がかい離していないかをチェックし必要に応じて見直し、修正をしています。修正の際には全職員が目を通し確認しています。保育課程に基づき、年齢、成長に応じたクラス別の基本テーマを設定しています。クラステーマは「新学期のしおり」に分かりやすく記載し、クラス懇談会で園長、主任、担任が保護者に説明しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに指導計画を作成しています。1歳児～3歳児クラスは2つのグループに分け、グループごとに指導計画を作成しています。保育士は子どもの表情やしぐさ、態度などを観察して子どもの意思を汲み取り、一つずつ言葉にして子どもの意向を確認しています。言語化できる子どもからは、話を丁寧に聞き取り意見や要望を把握し、計画に反映しています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- (1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。
- (2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。
- (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

- ・入園前に保護者に面接をしています。面接はクラス担任、主任、看護師が行い、生育歴や家庭環境、健康や離乳食について確認しています。把握した情報はファイルし、保育室の鍵のかかる引き出しに保管し、必要な職員がいつでも見ることができるようになっています。また、クラスミーティング、職員会議、連絡会議などでも必要な情報を共有し、保育に活かしています。
- ・子どもの状況に合わせて保護者と相談し、子どもに負担がかからないよう短縮保育（ならし保育）を実施しています。保護者の仕事の開始時期によっては、一時保育を勧めています。
- ・乳児は、月齢や発達段階、子どもの様子に合わせて少人数のグループ分けをしています。グループごとに担当保育士を決めて、愛着関係を築けるようにしています。
- ・3歳の誕生日までは毎日、連絡帳を用いて保護者と情報共有しています。保育士は、送迎時には保護者に声をかけて相談にのり、保護者が不安を感じないように支援しています。
- ・クラスミーティングで話し合い、年間指導計画、月案の作成、評価、見直しをしています。作成した計画は、毎月の職員会議、連絡会議で報告し、話し合っています。議事録は印刷して個別配布し、全職員が同じ対応ができるようにしています。

I-3 快適な施設環境の確保



- (1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。
- (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- ・用務員を配置し、朝晩清掃を行うとともに、活動の切れ目などには保育士がこまめに清掃しています。また、絨毯や床は専門業者による定期清掃を行っています。きれいな環境を全職員で意識して清掃を心がけることで、保育園の内外ともに、清潔に保たれています。
- ・小グループ保育を取り入れ子どもの集団を小さくすることで、保育士や子どもの声のトーンが下がり、ゆったりとした保育が展開できる効果が出ています。
- ・0・1歳児保育室に沐浴の設備、0・1・5歳児保育室に温水シャワーの設備があります。沐浴、温水シャワーの設備は清掃が十分に行われ、清潔に保たれています。
- ・保育室を棚等で仕切り、少人数のグループで落ち着いて過ごせるような環境構成をしています。0歳児～3歳児はクラスを2つに分けています。4・5歳児は1クラスですが、2グループに分けて活動しています。乳児はさらに4・5人の少人数にグループ分け、個々の生活リズムに合わせて生活できるようにしています。
- ・異年齢時間の交流の場としては、4・5歳児保育室前廊下の絵本コーナーがあります。子どもたちは朝夕の合同保育や散歩、園庭遊びなどで日常的に異年齢で交流しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



(1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。

(2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・乳児・幼児ともに、クラスミーティングやカンファレンスで話し合い、全園児の個別指導計画を作成しています。
- ・全園児のカンファレンスを園長、主任、クラス担任、看護師などが参加し行っています。最低でも一人年一回は取り上げることとし、一人一人の発達の状況について話し合い、課題を抽出し、指導計画に反映しています。特に課題がない子どもについてはもっと園生活を楽しく過ごすためにはどのようにすれば良いか話し合っています。次回のカンファレンスで取り上げる子どもを前月に決め、記録を確認したり、保護者の意向を確認したり、職員の意見を聴取したりし、子どもの現状を確実にとらえられるようにしています。
- ・子どもの状況に合わせ、最低でも3ヶ月に一度は個人記録に子どもの成長発達の様子を記載しています。乳児は個別の月案の裏面に毎日の子どもの様子を記載しています。個人記録、カンファレンスの記録、面談記録等は個人別のファイルにまとめられ、必要な職員が確認することができます。また、全園児、年度末に保育経過記録を作成し、進級時に引き継いでいます。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



(1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。


(2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。

(3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。


(4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。

(5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。



- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。月に一度のカンファレンスで個別のケースについて話し合い、配慮事項を検討しています。共有すべき情報は記録し、必要な職員がいつでも確認できるよう、施錠ができる引き出しに保管しています。
- ・園舎はバリアフリーになっていませんが、手すりやスロープを設置するなど工夫しています。エレベーターはありませんが、歩行が困難な子どもが入所した場合には、必要に応じて職員が抱っこするなどして支援しています。
- ・北部地域療育センターの巡回指導を受け、内容を職員会議で報告し共有しています。外部の研修に参加した職員は研修報告書を提出するとともに、職員会議で伝達講習を行い、全職員に周知しています。研修の成果は、図やマークなどのユニバーサルデザインの予定表などに活かされています。
- ・虐待マニュアル、チェックリストを整備するとともに、虐待の研修を実施し、職員に周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、区役所、児童相談所などの関係機関と連絡を取り連携しています。
- ・食物アレルギーがある子どもに対しては、子どもの主治医の指示に従い除去食を提供しています。また、体調の悪い子どもに対するお粥食などにも対応しています。除去食の提供にあたっては、あらかじめ保護者に献立表の対応食材の成分表を用いて確認して

	<p>もらっています。除去食を提供する際には、トレイや食器を別にし、調理室からの受け渡しと子どもへの提供時に、複数の職員でファイルと口頭で確認しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教上の食事制限に対応するなど、文化や生活習慣、考え方の違いを尊重しています。意思疎通が困難な保護者に対しては、連絡をローマ字で書いて渡すなどしています。面接時などには、通訳ボランティアを頼んでいます。
<p>I - 6 苦情解決体制</p>  <p>(1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情受付担当、第三者委員などを定め、懇談会で保護者に口頭で説明するとともに、玄関および廊下の掲示板に掲示し周知しています。意見箱を玄関に設置するとともに、クラス懇談会、行事後のアンケートなどで保護者の意見、要望を聞いています。また保育士は、連絡帳や保護者との日常会話の中で保護者の要望や意見を把握するように努めています。 ・要望や苦情があった場合には、すぐに園長、主任に報告する体制ができています。苦情や要望は職員会議や連絡会議で内容や原因を説明し、再発防止に努めています。個別の苦情や要望は個々に対応しますが、園全体に対する苦情や要望については、解決策を保護者にも伝えていきます。要望や苦情は小さな事であっても、苦情ノートに記載し、今後活かしています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ - 1 保育内容[遊び]</p>  <p>(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室内の絵本やおもちゃについては、毎月開催する保育課程委員会及びクラスミーティングで検討し、年齢や発達に応じた選択に力を入れています。 ・朝夕の自由遊び時間や散歩先での自由遊び時間などでは、一人で静かに絵本を読む子ども、数人でままごとやブロック遊びをする子ども、大勢で鬼ごっこをする子どもたち等、自由に自分のしたい遊びを楽しんで過ごしています。また一斉活動においては、みんなで楽しく過ごすために必要な、順番を守る約束や友だちと話し合うルールも学んでいます。 ・園庭でうさぎを飼育しており、3・4・5歳児が当番制で餌やり・飼育舎の掃除・ハーネスをつけての園庭散歩等の世話をしています。また、屋上ではプランターにゴーヤ・トマト・キュウリ・ナス・小松菜等の野菜を植え、収穫して給食の材料に加えてもらい食べるま

<p>を動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<p>での体験をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現力を培うため、外部の専門講師による絵画教室（週1回）とリトミック（月2回）の時間を設けています。現在は3歳児クラスから取り入れていますが、今後リトミックに関して1歳児クラスからの導入も検討しています。 ・絵画や制作などに使用する文具や素材を十分にそろえ、子どもたちが自由に表現できるように配慮しています。また、一人ずつの道具箱や縄跳び紐は個人で買い求めるのではなく、3歳から卒園までの期間、園が貸し出す形式をとっています。「きれいに使って、きれいに返す」という共同生活のルールを学ぶ機会とも捉え、子どもたちにこうした意味を伝えています。 ・子ども同士のけんかについては、「大人に仲裁に入ってもらわないと解決できない子どもには育ててほしくない」「子どもの自己解決能力を高めたい」という園としての姿勢があり、保育士は子ども同士の解決が出来る姿を目指して見守る姿勢でいます。言葉が未発達の乳児に関しては間に入りそれぞれの気持ちを代弁し、ケガのないように配慮しています。 ・天気の良い日は毎日、散歩を取り入れています。また、健康増進を目的として外部の専門講師による体操教室（3歳児クラスから）と剣道教室（4歳児クラスから）を取り入れるなど、積極的に子どもの体力作りに臨んでいます。
<p>Ⅱ－1 保育内容[生活]</p>  <p>(7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。</p> <p>(8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。</p> <p>(9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。</p> <p>(10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。</p> <p>(11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。</p> <p>(12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間食育計画を立て、子どもたちが食に関心や興味を持つように配慮しています。年齢に応じて、野菜栽培・収穫・野菜の皮むき等の調理の下準備・クッキング等を行っています。この取り組みにより苦手な食べ物を克服できた子どもも多くいます。また、3歳児クラスからは当番を決め、年齢に応じて出来ることの範囲で配膳の手伝いをしています。 ・給食は外部の給食業者に委託しています。業者の管理栄養士と調理員が季節感のある手作りの給食とおやつを提供しています。また、ひな祭り・子どもの日・七夕・クリスマス等の行事食ランチも取り入れています。クリスマスランチでは3歳児クラス以上でバイキング形式の給食も楽しんでいます。 ・管理栄養士・給食業者マネージャー・園長・主任で構成する給食会議を毎月開催しています。子どもの喫食状況を毎月の連絡会議で把握し、この内容をもとに給食会議で検討し、献立や調理に反映しています。 ・毎日、その日の給食とおやつのサンプルを玄関に展示し、お迎えの保護者に見てもらっています。また、献立表には人気メニューのレ

	<p>シピを載せ、保護者に関心を持ってもらう工夫をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回、給食懇親会を開催し、給食の試食をしてもらいながら園で行う食育活動の説明や給食時の様子等を保護者に伝えています。保護者からの給食についての意見や子どもの食に関する相談等に応じる機会でもあります。 ・睡眠中の乳幼児突然死症候群を予防する対策として、0歳児は5分毎、1歳児は10分毎の呼吸チェックを行い、うつぶせにせず仰向けで寝かせています。 ・トイレトレーニングは、子どもが排泄の失敗で傷つくことのないようにそれぞれの発達に合わせ、タイミングを見極めて開始しています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、これに基づき、看護師及び担当保育士が子どもの健康状態を的確に把握しています。 ・健康診断は、内科健診を年2回、心臓健診・歯科健診・耳鼻科健診・視聴覚検査・ぎょう虫検査を年1回、他に3歳児以上対象の尿検査を実施しています。全ての健診の結果は記録し、それぞれの個人記録ファイルにまとめています。 ・保育中の子どもに発熱や嘔吐等の感染症が疑われる症状が見られた場合には、保護者に連絡し、子どもはスタッフルームで休ませ看護師が付き添って保護者のお迎えを待つようにしています。 ・感染症が園内で発症した場合にはもちろんのこと、世間での流行の兆しが見られた段階からホワイトボードに詳しく情報と注意事項を書き、園内の数か所に掲示を行っています。さらに、実際に感染症児童が多くなりそうな時には、園で採用している一斉メール配信で保護者に注意を呼び掛けています。
<p>Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>  <p>(4)衛生管理が適切に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員には運営法人で行う採用時の新人研修の他、全職員対象に年に3回程度、正しい手洗い方法、嘔吐処理法などの保健研修を園内で実施しています。また予想される感染症流行の前には清掃方法の実践講習を実施し、園内の全てのトイレには嘔吐物処理セットを備えています。 ・築40年の園舎を清潔に保つために、日々の清掃は職員だけでなく用務員がより丁寧に行っています。さらに専門業者による清掃を取り入れ、年間を通して計画的に徹底した園舎中の手入れを続けています。この努力により園舎は清潔に保たれています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。
- (7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・地震等を想定した備品の安全対策については、職員の手で留め具をつけるのではなく、業者に依頼して全ての備品の裏側で確実に留める対策を講じています。
- ・各保育室の電話横には緊急時の連絡手順をわかりやすく表示したものを備え、誰でもが落ち着いて状況に対応できるようにしています。また、緊急時の保護者への連絡は一斉メール配信のシステムを取り入れています。
- ・防犯・地震・火災などに対応する避難訓練を組み合わせ、毎月2回実施しています。さらに、年1回は広域避難場所への避難訓練も取り入れています。
- ・事故やケガが発生した場合には、現場の状況・対応・原因等を記載する「事故報告書」と、直接的間接的な原因・改善を要する点・今後の取り組み等を記載する「再発防止のための事故報告書」の2種を作成し、職員会議や連絡会議で再発防止策を話し合っています。会議欠席者には議事録を配り、全職員で「子どもを守る」姿勢を徹底しています。
- ・園の門扉及び玄関は朝夕の登園降園時間のピークとなる時間帯を限定して開錠し、その他の時間は不審者の侵入防止策として施錠しています。施錠時間の来園者はインターホンで顔確認をして開錠しています。

Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・園では子どもの気持ちを考慮した言葉のかけ方について、職員会議で話し合っています。職員は否定語ではなく肯定語で話すことにより、子どもの気持ちを前向きにするような工夫を学び合っています。
- ・子どもと一対一で話し合う場所は、他児のいない場所を選び、主に廊下に備えた子ども用のソファなどを利用しています。園庭に面した広い廊下に設置した子ども用のソファと絵本棚のある空間は、子どもが落ち着いて過ごす場所としても良く機能しています。
- ・個人情報の取り扱いに関するガイドラインは運営法人で定め、正規職員には新人研修で、非常勤職員及び派遣職員には園内のオリエンテーションで周知を図っています。
- ・性差についての勉強会を開き、問題があった場合には職員間で話し合うこととしており、子どもや保護者に対し、父親母親の役割分担を固定的に話すことはしていません。



Ⅱ－４ 保護者との交流・連携






- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- ・ 毎月発行の「園だより」では、各クラスの「今月の目標」として年齢ごとの保育の方針を明示しています。
- ・ 保護者との情報交換は各保育室に備える「伝達記録」を活用し、子どものその日の様子を口頭で保護者に伝え、保護者との信頼関係を深める努力をしています。
- ・ 連絡帳での情報交換は、およそ2歳児クラスまでとし、3歳児クラスからは1日おき程度のやり取りから徐々に回数を減らしていく過程をとっています。
- ・ クラス全体の様子については、春のクラス懇談会・秋の給食懇親会の場で保護者に伝えています。
- ・ 保育士が保護者からの相談を受けた時には、内容や必要に応じて園長や主任が面談に同席し適切に対応する体制があります。
- ・ 毎月、「園だより」「クラスだより」「ほけんだより」「きゅうしょくだより」を発行しています。
- ・ その日の保育の様子はクラスごとに「スケッチブック」に記載しクラス前の廊下に掲示して、お迎えの保護者に見てもらえるようにしています。
- ・ 年度初めのクラス懇談会では、園の基本方針や理念を園長が説明しています。また、この懇談会前に配付するクラス毎の「〇〇ぐみ新学年のしおり」は、運営法人の理念・クラスの年間指導計画・食育計画・年齢ごとの具体的な目標や注意事項等をわかりやすく記載しています。
- ・ 保育参加は予約制で、随時受け入れています。保護者には参加を促す声かけを積極的に行い、高い参加率です。
- ・ 園の出入り口に位置する事務室から園長が毎日保護者に声をかけ、保護者からも直接要望や意見が言いやすい関係を築いています。



評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2) 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ニーズを把握するために、幼保小教育交流事業での夏季合同研修会や合同授業の実施、「みどりっこまつり」・自治会・近隣他園等との会議参加やイベント・行事の検討等を行っています。 ・入職３年目の職員を地域支援担当と決め、次年度の地域支援計画作成も含めた会議を年数回開催しています。 ・地域への子育て支援サービスとして、一時保育・育児相談・交流保育・園庭開放・プール開放を行っています。 ・地域住民に向けての保育講座は「つくって遊ぼう」「つくって食べよう」「プール指導」などの企画で実施しています。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>  <p>(1) 地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への育児支援に関する情報提供は、園のホームページや緑区のホームページ「区役所からの子育て情報コーナー」内の「みどりっこカレンダー」、横浜市のホームページ「ヨコハマはぴねすぽっと」などに載せています。 ・育児相談については、特定の曜日とはせず、随時受け付けています。なお、保育所からのお知らせは、園の掲示板で提供していますが掲示板の活用が乏しいと思われます。積極的に活用し、情報提供のさらなる活性化を期待します。 ・行政機関・医療機関・自治会・地域の他保育所・小学校等の関係機関連絡先は一覧にして事務室内に備え、必要な職員がいつでも活用できるようにしています

評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1) 保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の公園に園が担当する花壇スペースがあり、子どもたちが花苗の植え付けや水やりなどを年間を通して行っています。 ・ 小中高校生の夏休み限定ボランティアを受け入れています。また小学校とは、5歳児の就学準備の交流があります。 ・ 地域のグラウンドを、週に1回利用しています。利用団体間の打ち合わせにより日時が決定していますが園児の為に他団体が自発的に時間の融通をつけてくれる事などもあり、大変良好な地域交流の場となっています。 ・ 敬老の日には、5歳児が高齢者の自宅訪問をして地域のお年寄りに喜んでもらっています。 ・ 近隣の保育園5園合同のイベント企画、5歳児の小学校訪問、高齢者施設への訪問など、子どもと地域との交流を様々な形で実践しています。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p>  <p>(1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。</p> <p>(2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営法人のホームページがあり、園の基本方針・保育の様子・保育時間等の情報を提供しています。 ・ 横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」、緑区のホームページ「区役所からの子育て情報コーナー」内の「みどりっこカレンダー」に保育所の情報を随時提供しています。 ・ 利用希望者には見学が出来ることを案内しています。見学希望者には、給食時間や午睡時間を避けて、子どもたちの活動が見てもらえる時間帯を勧めています。出来る限り見学希望者の都合に合わせて対応しています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。</p> <p>(2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の職業体験や高校生のインターンシップを積極的に受け入れています。また、夏休みを利用した小学3年生からのボランティアの受け入れもしています。園児と遊んでもらう取り組みです。 ・ 実習生受け入れについては、「社会に貢献する」との園理念に則り、積極的に受け入れる姿勢があります。 ・ 実習プログラムは実習生との面談で本人の希望を聞きとり、担当するクラス担任が作成しています。 ・ 実習中は、休憩時間や終了時にクラス担任が実習生と話をする時間を持っています。実習後には、実習日誌を完成させて後に日を改めて来園してもらい、園長・主任と反省会を持っています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。</p> <p>(3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は保育所運営に十分な人材構成であるかをチェックし、基準以上の人材を確保するようにしています。勤務年数の長い職員が多く、幅広い年齢層の職員構成となっています。 ・1年目、2年目、3年目、リーダー層など、経験や習熟度に応じた人材育成の計画を作成しています。年2回の主任との自己評価の面接で次期の目標設定をし、達成度を評価しています。自己評価は勤務評価と連動しています。 ・研修担当保育士が主任と相談し、研修計画を作成しています。園内研修としては、1年目、2年目、3年目、リーダー研修などがあります。また、全職員を対象に、アレルギーや嘔吐処理などの保健研修を実施しています。職員は、市や区などが主催するわらべうたあそび、障がい児保育、運動遊びなどの外部研修に参加しています。外部研修に参加した職員は報告書を記載するとともに、職員会議で伝達講習を行っています。法人研修としては、法人3園の交換研修、3園合同のカンファレンス発表会などがあります。 ・非常勤職員を含む全職員に「保育業務マニュアル」と「福澤保育センターの手引」を配布しています。 ・業務にあたっては、必ず職員と非常勤職員を組み合わせています。保育では常勤、非常勤職員の区別はなく、非常勤職員もクラスミーティングやカンファレンスに参加しています。保健研修、グループ別勉強会には非常勤職員も参加しています。また、外部研修に参加した職員が伝達講習を行い、周知しています。非常勤担当保育士がおり、主任とともに、職員間のコミュニケーションを図っています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p> <p>(2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。</p> <p>(3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、非常勤職員を含めた全職員が、一般常識、職業倫理、保育の実践、職員間の連携、管理能力（4年目以上）の各項目について自己評価をし、主任との面談で達成度の評価を受けています。また、法人作成の「保育所の自己評価」を実施しています。 ・指導計画、日誌には振り返りの欄があり、定形化されています。振り返りは保育方針と計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われ、結果を次期の計画に反映しています。 ・日誌には、子どもの活動や結果だけでなく、子どもの言葉などが丁寧に記載し振り返りがなされていて、子どもの育ち、意欲、取り組む過程などを重視していることが伝わります。 ・保育士の自己評価から抽出された課題をもとに、職員会議で改善策について話し合っています。保育所としての自己評価は理念や方針、保

	<p>育課程に沿って行われています。また、保育課程委員会でも保育の現状が保育方針や保育課程に沿っているかを常にチェックしています。保育所としての自己評価を玄関のファイルに置き、いつでも見られるようにしています。</p>
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p>  <p>(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修計画に経験や能力に応じて求められる視点や役割を明記しています。ただし、職員に改めて説明することを行っていないので、職員の意識向上のためにも周知することが期待されます。 ・経験や能力に応じたクラスや会議の運営などの役割や係を定め、可能な限り職員に権限を委譲しています。 ・職員の数が多く、幅広い年齢層や経験を持つ職員がいるので、職員会議や連絡会議で情報共有を図るとともに、それぞれの保育観を話し合い、お互いの良さや特技が活かせるよう配慮しています。職員会議などの場では職員が活発に発言し、意見交換することを大切にしています。 ・園長・主任は、職員との日常会話の中で、職員の満足度や要望を把握するように努めています。また、年2回の主任との面談でも、職員の要望を聞いています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル「職員倫理について」で守るべき法・規範・倫理が明文化され、職員に周知しています。また、1年目研修で倫理について説明しています。 ・ゴミの分別を子どもと一緒にしています。廃材を製作の素材や手作りおもちゃに用いる、紙はすべてシュレッダーにかけ資源ごみに出すなど、ゴミの減量化に努めています。省エネの取り組みとしては、夏場には窓を開け扇風機を活用する、すだれを用いる、ゴーヤカーテンなどがあります。ただし、環境についての考え方を明文化するまでには至っていません。 ・クレヨンやハサミなどの教材は貸し出しとするなど、物を大切にする教育を行っています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



(1) 保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

(2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

(3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・ 園長は、職員が自分の言葉で理念、基本方針を説明できるよう、職員会議や連絡会議で理念、基本方針の周知徹底を図っています。また、園長、主任は指導計画や日誌に目を通し職員が理念や基本方針を理解しているかを確認し、必要に応じて指導しています。
- ・ 重要な意思決定について、園長は職員会議で話し合いを重ね、職員が納得して取り組めるようにしています。保護者には懇談会や給食懇親会で説明し、意見交換しています。
- ・ 保育士が課題ととらえていることについて、職種を越えてグループを作って研究するグループ別勉強会を実施しています。勉強会には看護師や非常勤職員も参加しています。勉強会の成果としては、4・5歳児の異年齢の交流の場の設置、図や絵等のユニバーサルデザインを用いた予定表の作成、保育室のレイアウトの変更などがあります。
- ・ 法人として主任の要件を定め、市のリーダー研修、主任研修などに派遣し計画的に主任クラスを育成しています。
- ・ 主任はフリーの立場で様々なクラスに入り、職員の業務状況を把握し、保育士一人一人がその良さを活かせるよう働きかけています。また、ベテラン保育士と協力し、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように働きかけています。

VI-3 効率的な運営



(1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

(2) 保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・ 園長は横浜市私立保育園園長会、緑区園長会、市や区の福祉部会、緑区医師会の保育園長勉強会等に参加し、事業運営に影響のある情報を収集、分析しています。重要な情報は3園の運営会議で取り上げ、話し合っています。園長は、職員会議や連絡会議で、職員に運営会議の報告をし、園の取り組みとしています。
- ・ 理事会で決定した中長期的な方向性を踏まえ、年度ごとの事業計画を作成しています。理事会、運営会議では、時代の組織運営に備え、あらたな仕組みについて常に検討しています。
- ・ 計画的に、主任研修や全社協の園長養成研修等を受講させ、長期的視点にたった幹部職員の育成を行っています。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2015年11月30日～12月18日

回収率：38.8%（回収64枚／配付165枚）

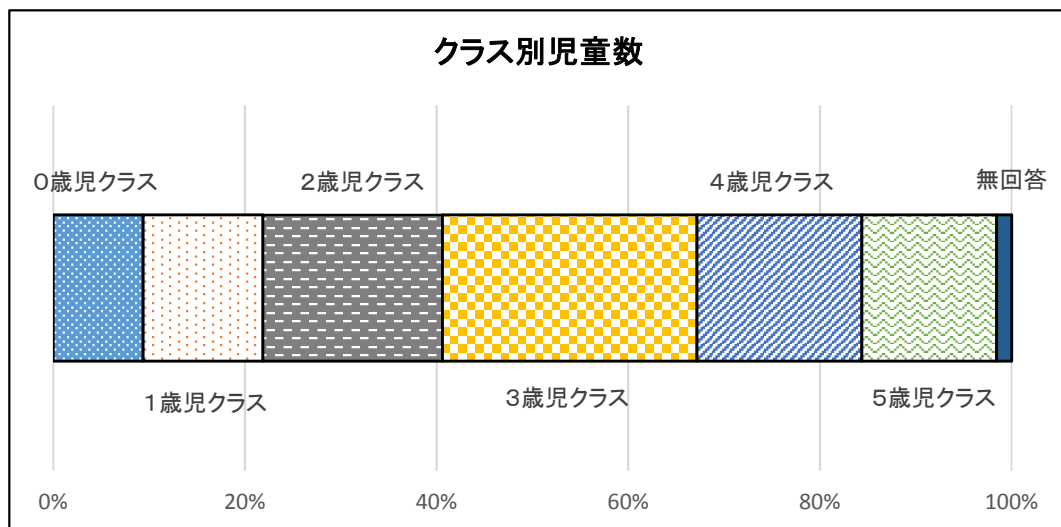
【属性】

クラス別児童数

(人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
64	6	8	12	17	11	9	1

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どもクラスのクラスで記入

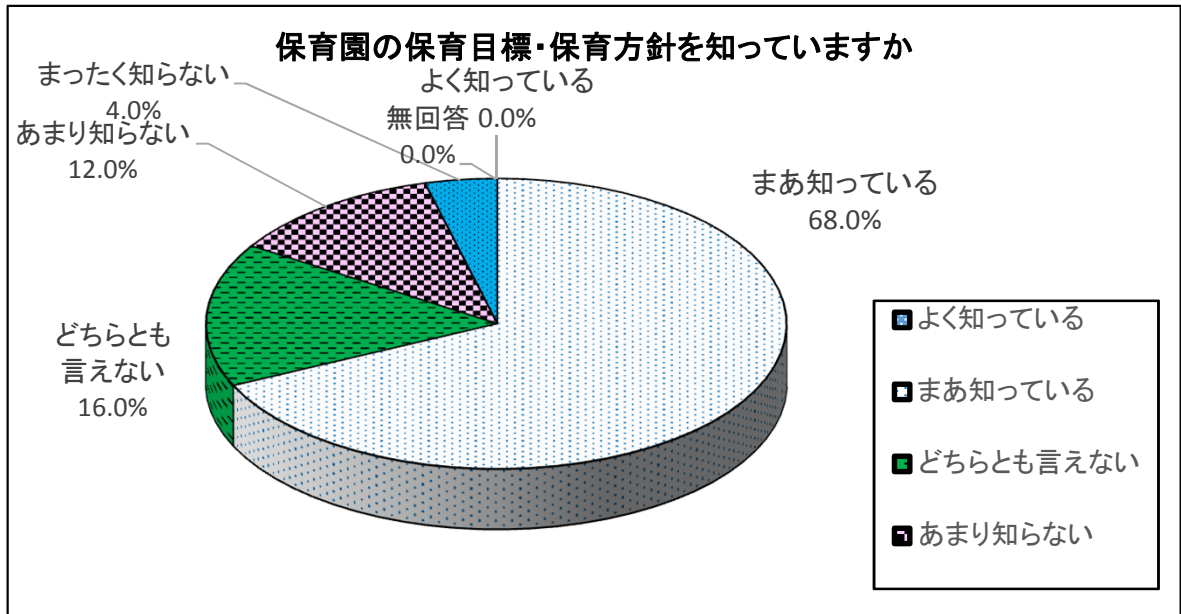


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	0.0%	68.0%	16.0%	12.0%	4.0%	0.0%	100.0%

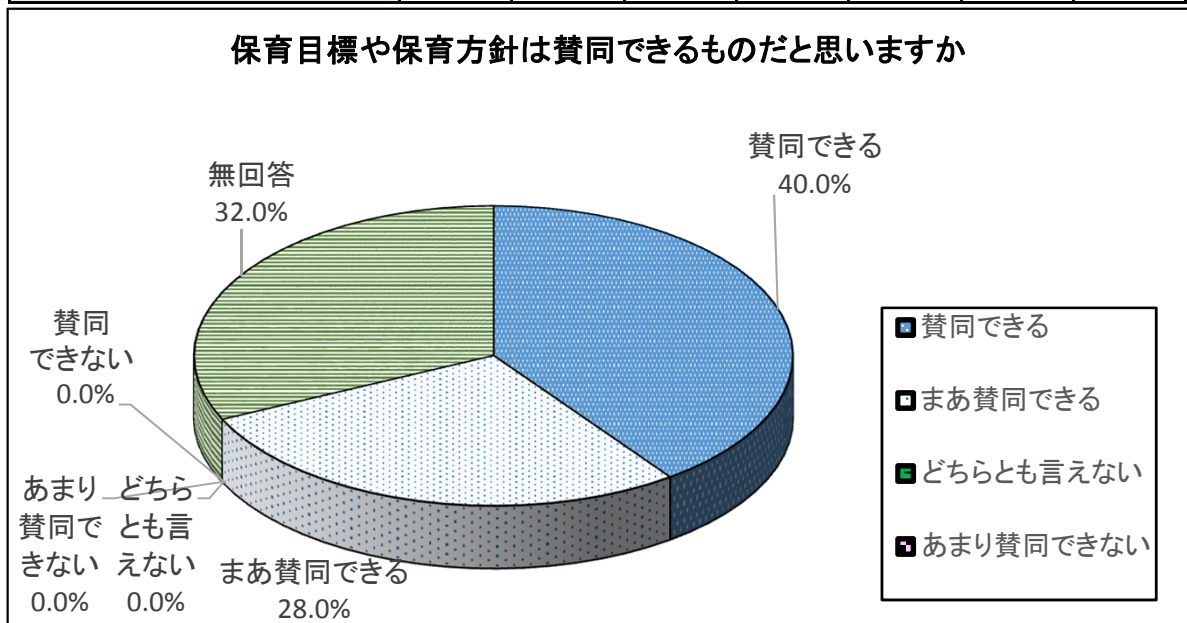
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	40.0%	28.0%	0.0%	0.0%	0.0%	32.0%	100.0%

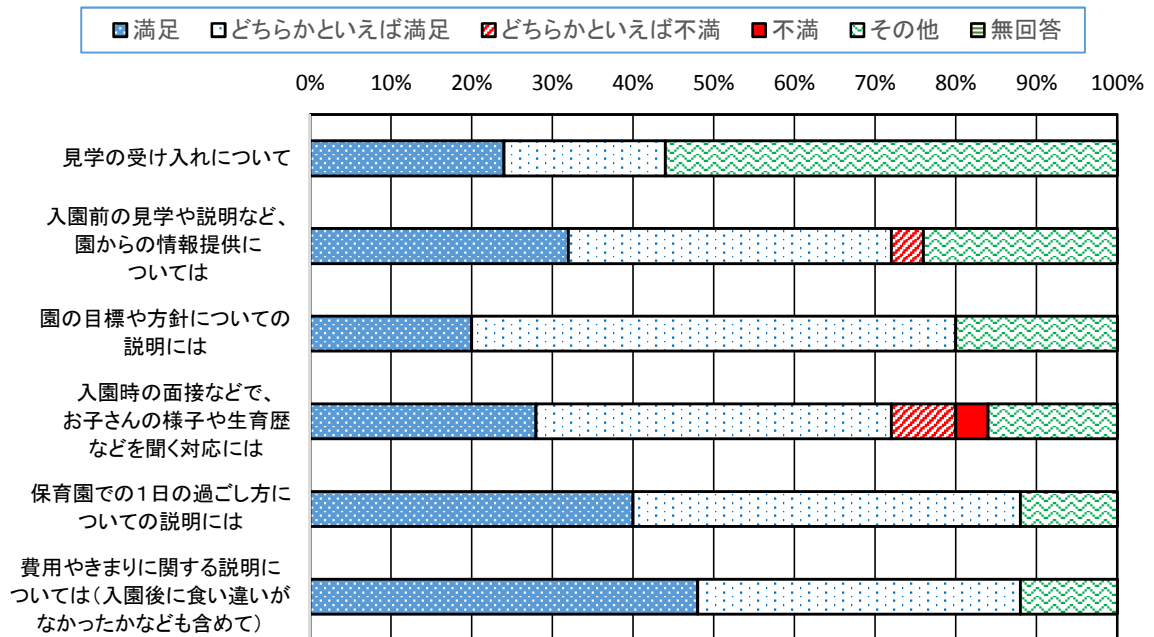


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	24.0%	20.0%	0.0%	0.0%	56.0%	0.0%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	32.0%	40.0%	4.0%	0.0%	24.0%	0.0%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	28.0%	44.0%	8.0%	4.0%	16.0%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	40.0%	48.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	48.0%	40.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	100.0%

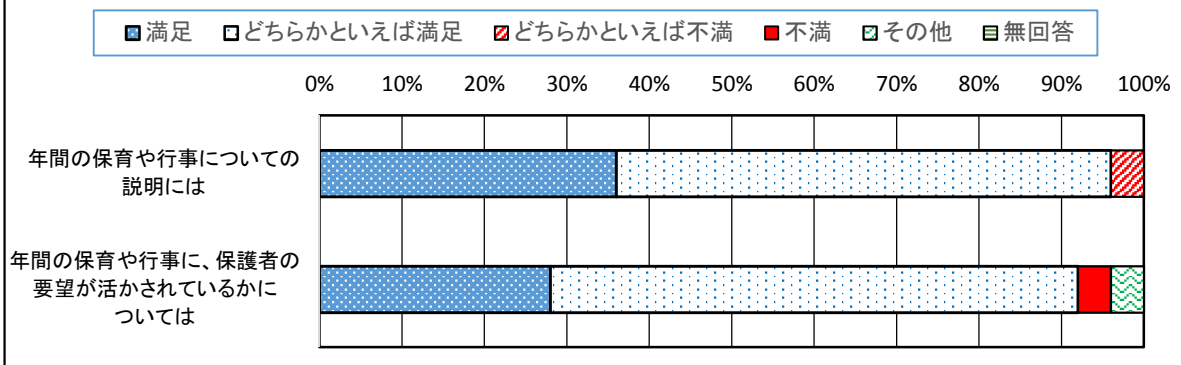
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	36.0%	60.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	28.0%	64.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	100.0%

年間の計画について

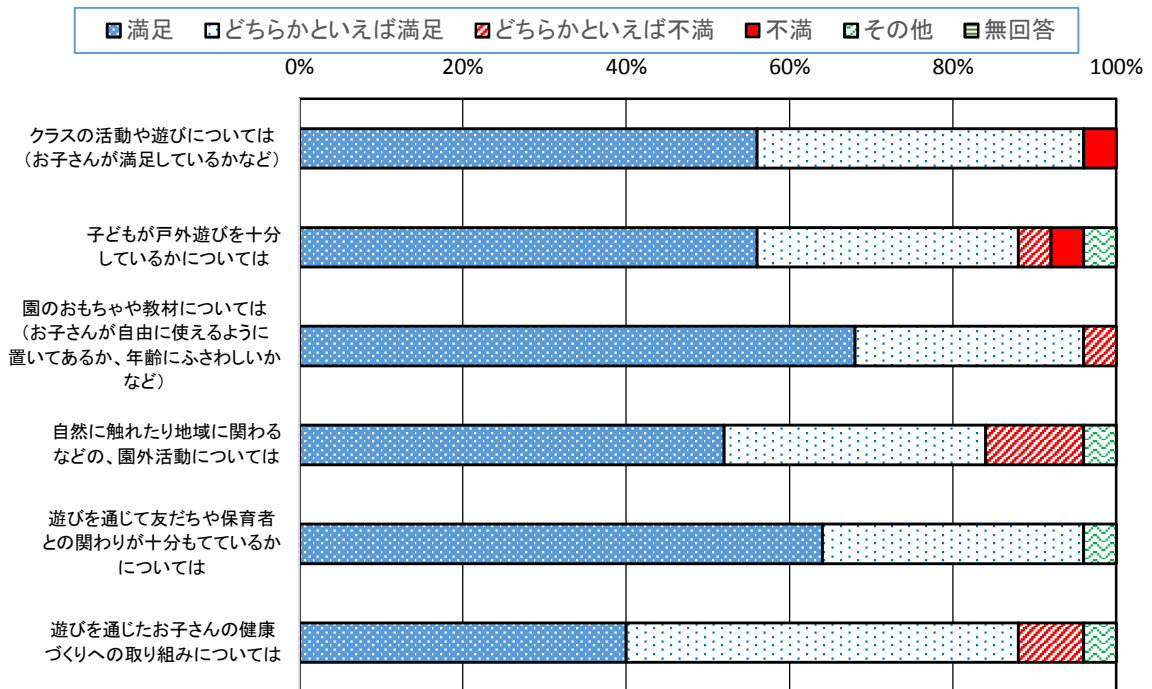


問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	56.0%	40.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56.0%	32.0%	4.0%	4.0%	4.0%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	68.0%	28.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	52.0%	32.0%	12.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	64.0%	32.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	40.0%	48.0%	8.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%

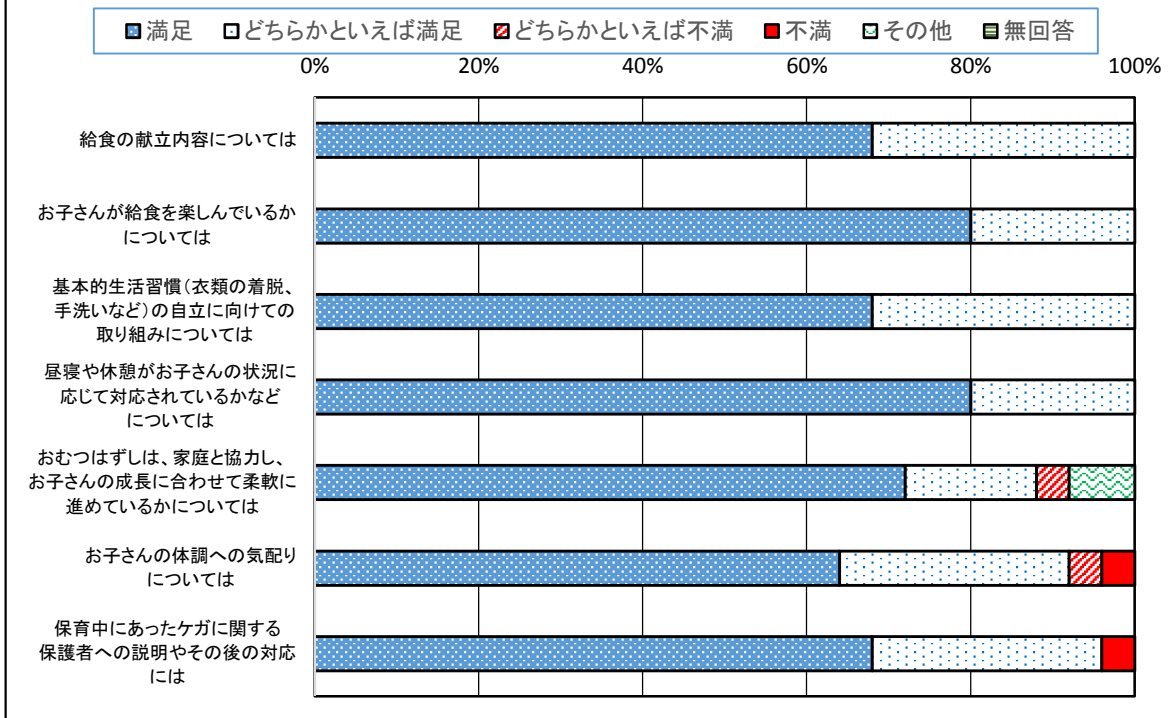
日常の保育内容「遊び」について



●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	68.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	68.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	72.0%	16.0%	4.0%	0.0%	8.0%	0.0%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	64.0%	28.0%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育中であつたケガに関する保護者への説明やその後の対応には	68.0%	28.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「生活」について



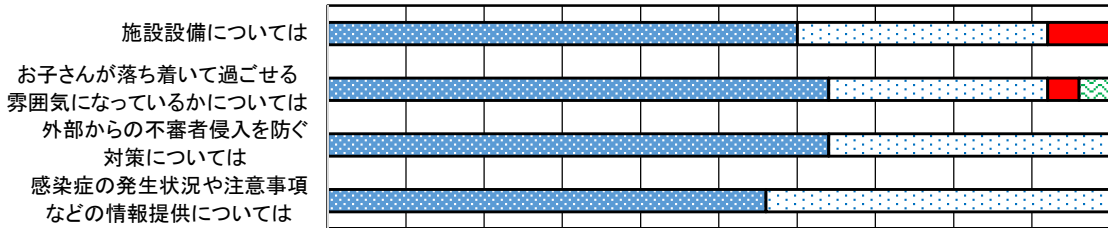
問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	60.0%	32.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	64.0%	28.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	64.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	56.0%	44.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

快適さや安全対策などについて

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



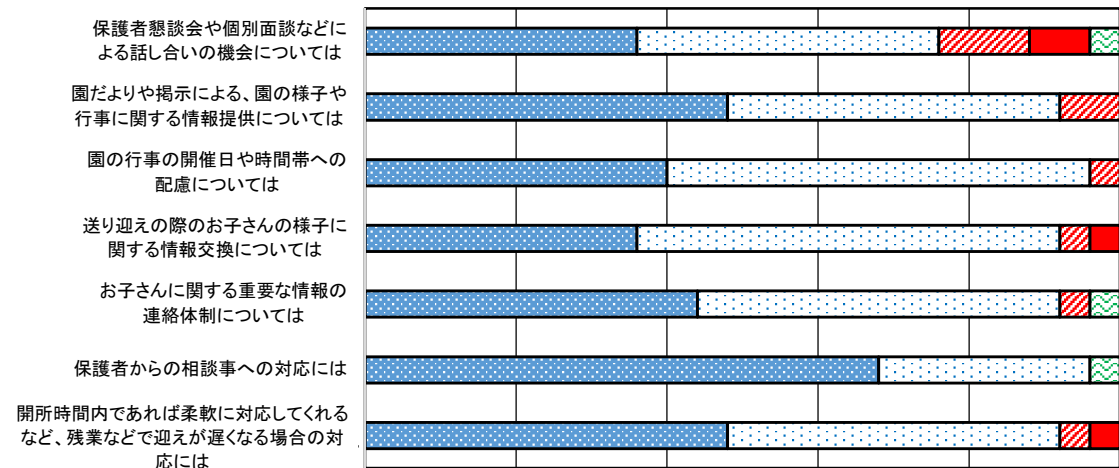
問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	36.0%	40.0%	12.0%	8.0%	4.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	48.0%	44.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	40.0%	56.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	36.0%	56.0%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	44.0%	48.0%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	68.0%	28.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	48.0%	44.0%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%

園と保護者との連携・交流について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

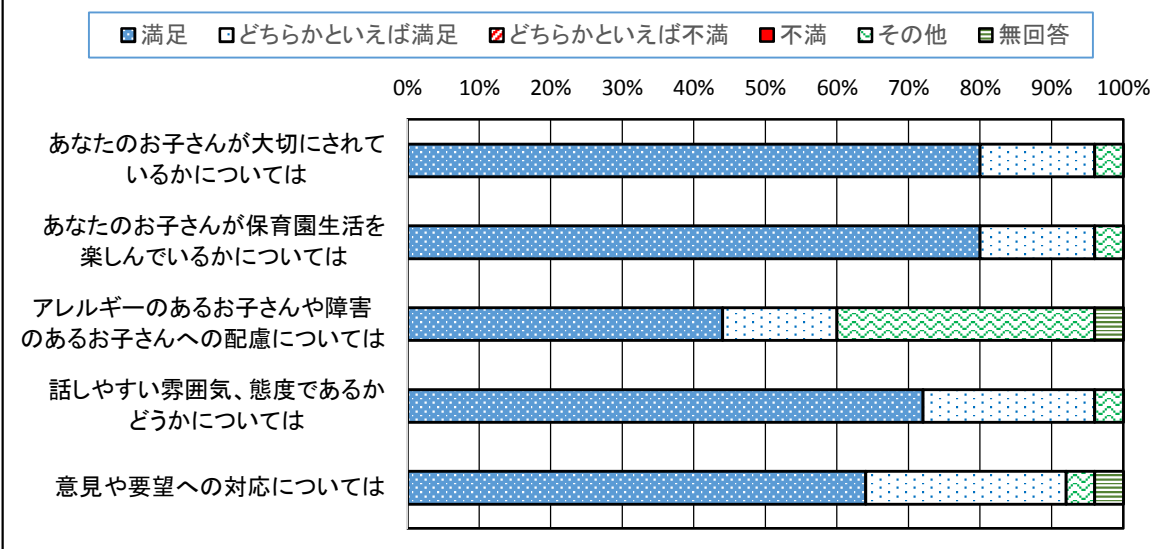
0% 20% 40% 60% 80% 100%



問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

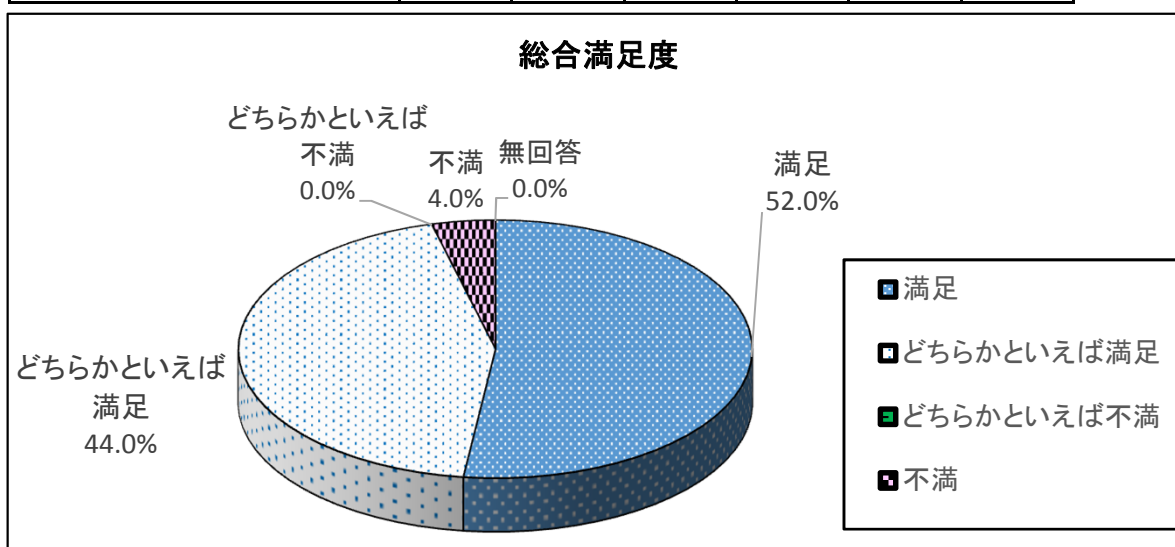
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	80.0%	16.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	80.0%	16.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	44.0%	16.0%	0.0%	0.0%	36.0%	4.0%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	72.0%	24.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%
意見や要望への対応については	64.0%	28.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	100.0%

職員の対応について



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	52.0%	44.0%	0.0%	4.0%	0.0%	100.0%



利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2015年11月30日～12月18日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 38.8%（165枚配付、64枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…6人、1歳児クラス…8人、2歳児クラス…12人、3歳児クラス…17人、4歳児クラス…11人、5歳児クラス…9人、無回答…1人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。
※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

- ・アンケートの回収率が38.8%と低いので、全ての保護者の意見を反映したものとはなっていません。
- ・園の保育目標や保育方針については「まあ知っている」と答えた保護者が68%、「どちらとも言えない」が16%、「あまり知らない」「まったく知らない」と答えた保護者が合わせて16%でした。「まあ知っている」と答えた保護者の中で「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えた保護者の割合は68%でした。
- ・満足度が比較的高い項目は、「給食の献立内容」「お子さんが給食を楽しんでいるか」「昼寝や休憩」「不審者侵入を防ぐ対策」「感染症についての情報提供」の100%、「クラスの活動や遊び」「おもちゃや教材」「遊びを通じた友だちや保育者との関わり」「年間の保育や行事についての説明」「行事の開催日や時間帯への配慮」「保護者からの相談事への対応」「お子さんが大切にされているか」「お子さんが園生活を楽しているか」「話しやすい雰囲気、態度であるか」の96%です。
- ・一方、不満の割合が比較的高い項目は、「保護者懇談会や個別面談などの話し合いの機会」が20%、「入園時の面接などでお子さんの成育歴を聞く対応」「園外活動」の12%です。
- ・「見学の受け入れ」が44%と低くなっていますが、「その他」が56%で、自由意見にも「見学していない」という意見が多数あります。また、「アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮」も満足度が60%と低いですが、「その他」「無回答」合わせて40%となっています。
- ・園に対する総合的な満足度では、「満足」(52%)、「どちらかといえば満足」(44%)合わせて96%の高い満足度になっています。
- ・自由意見には、感謝の言葉複数寄せられています。一方、保育士の入れ替え、駐車場、おむつはずし、職員による対応の違いなど、様々な意見や要望が寄せられています。

◆まとめ

- ・問3「保育園の年間計画」、問4「日常の保育内容（遊び、生活）」、問5「保育園の快適さや安全対策」については、全ての項目が8割以上となっていて、保護者の満足度が高くなっています。保護者が子どもの日常の様子を見て安心し、満足していることが伺えます。
- ・一方、園が大切にしている保育理念・方針を「知っている」と答えた保護者の割合は低くなっています。保護者が理解できるような説明方法のさらなる工夫が期待されます。

利用者（園児）本人調査 分析

◆ 観察調査 ①1月19（火）9：00～18：00 ②1月22日（金）9：00～13：30

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

◆ 0歳児クラス

月齢の差で、保育室での子どもたちの生活が大きく違うクラスです。一番小さな赤ちゃんはベビーベッドですやすや眠っています。隣のスペースでは、音の出るおもちゃのボタンを自分で押して、流れてくる音楽に合わせて体を動かしている子どもや、片手でしっかり握ることの出来る大きさのブロックを転がしたり追いかけたりして遊ぶ子どもたちがいます。遊びの途中では傍らに座る保育士に、たびたびみんながくっついて甘えています。

おやつや食事の前には、みんなで一緒に自分で手洗いをしています。「まんま食べるからお手々洗いに行こう」の保育士の声に、手洗い場に行くことを理解できる子どもたちです。石鹸をつけ「ごしごしして」、ペーパータオルで「ふきふきして」、ゴミ箱に「ポイポイして」、みんなで上手に出来ました。食卓につくと、保育士に食べさせてもらいながらも、食欲旺盛な子どもたちは手づかみでもモリモリ食べています。

おむつの交換は「おしっこ替えようね」と優しく話しかけてもらいながら、清潔にしてもらっています。たくさんの言葉であやしてもらい、赤ちゃんの機嫌のいい喃語と笑顔があります。

◆ 1歳児クラス

子どもたちが散歩に行く準備に靴下をはいています。自分で出来る子どもも大勢います。少し曲がっていたり、ひっぱり具合が足りなかったりしているところを保育士に1人ずつ直してもらっています。

「はかせて」と、お願いしている子どももいます。散歩先は近所の公園です。公園の遊具や木の切り株、落ち葉等々、視界に入る全てのものが子どもたちの想像を膨らませて楽しい遊びにつながっていきます。赤忍者さん・青忍者さん・赤いくまん…想像の世界から出てくる子どもたちの言葉です。公園の丸い椅子の周りでは「とけちゃうぞ、バターになるよ！」といいながら、ぐるぐる走り回っている子どもたちもいます。実の付いた枯れ枝を取り合う小さな揉め事がおこりました。一人は「わたしの！」と、言い張っています。相手の子どもは友だちに枝を返しました。保育士は、もらった子どもの傍らで「何ていうのかな？」と、「ありがとう」を促しています。そして枝を返した子どもには保育士からも「ありがとう。えらいね。」と、十分にほめてもらっていました。

トイレトレーニングがそろそろ始まっている子どももいます。便器に座りたい子どもは座っています。保育士が誘ってみても嫌がる時にはそれ以上は勧めません。子どもの気持ちのタイミングも見極めています。

◆ 2歳児クラス

朝の時間、毎日の生活習慣を歌で楽しく学んでいます。「朝の歌」「おやつの歌」「お返事の歌」「歯みがきの歌」などと続き、歌いながら朝の挨拶やおやつの準備が進んでいきます。母親と離れる寂しさで泣いてしまう子どももまだ何人かはいるクラスですが、お友だちの歌声や「一緒に遊ぼう」という保育

士の声で、すぐ仲間に入っていきます。

散歩に出かけます。いつもの散歩道には子どもたちが楽しみにしている、ネコのいる家があります。みんなでネコに挨拶もしています。散歩先の公園は昨日の雪がまだたくさん残っていて子どもたちは大喜びです。早く雪遊びがしたい気持ちですが、運動前の柔軟体操をきちんとしてからです。「アキレスケン、どすこい、ロケット、首の体操」、体をしっかり動かしました。雪の上を歩いたり、雪だるまを作ったり、鬼ごっこをしたり、ゴミ収集車を見つけたり、楽しい外遊びでした。園に戻ると、出迎えの園長先生に、公園でたくさん遊んだことや雪が冷たかったことを大きな声で報告しています。

◆ 3歳児クラス

散歩の準備が整い、園庭で出発を待つ子どもたちです。保育士が連絡をしている短い間ですが、友だち同士で手遊び歌が始まっています。二人三人と歌が広がりとても楽しそうな光景です。事務室からは園長先生が手を振って「行ってらっしゃーい」と声をかけてくれています。公園までの道のりは車道と歩道が別れていない住宅地の道路です。道の白い線から膨らまないように歩くこと・自動車やバイクが来たら止まること・前の人とあまり離れないように歩くことなど、いくつかの約束を守りながらの散歩です。公園での体操・鬼ごっこ・マラソン・滑り台・ブランコ、思う存分遊んでの帰り道は、「おなかペコペコー！」の音が聞こえました。

今日は、園庭で飼っているウサギの世話をするウサギ当番の日です。小屋の中を掃除し、餌トレイを洗い新しい餌をあげる当番です。保育士が掃除を済ませ、子どもたちの出来る範囲のお手伝いをします。掃除道具の片付けまでが当番のする事です。責任を持って、みんなで決まったことをする「お当番」を子どもたちは楽しんで行っています。

◆ 4歳児クラス

紙芝居が始まっています。子どもたちお気に入りの「おばけマンションへようこそ」の内容はみんながわかっています。保育士のお話と問いかけに子どもたちが答えます。「誰が住んでいるのかなー？」「ドラキュラー！」「みんなで呼んでみようか？」「トントントン」、すっかりお話の世界に入りきり気分は一気に盛り上がっています。

散歩に出かける前には、ケガをしないように守る注意や約束を聞いています。それぞれにトイレを済ませ上着を着て準備をしています。トイレのスリッパもきちんと揃える約束が守られています。

「トトロの森」を抜けて公園に行くと、走ってもいい長い道が続きます。笹の生い茂る道も葉をかき分けて進みます。思い切り走って転んでしまう子どももいましたが泣いていません。保育士に「痛かったね」となぐさめてもらって元気になっています。一般道に出ると、手をつないで道の端をそろって歩き横断歩道では左右の確認をして、「手を上げてピッ」をして渡る約束が守れる頼もしいクラスです。公園では様々な遊具で遊んだり、サッカーやドッジボールをみんなで楽しんで過ごしました。小さな言い争いがあちこちではありますが、自分たちで解決したことを保育士に抱いてほめてもらっています。

◆ 5歳児クラス

保育室内は、静と動の遊びスペースに分けられています。静の遊びスペースでは、人形遊びやブロック遊びをするグループや静かに絵本を読む子どもがいます。動の遊びスペースでは、隠れる場所のない保育室内ですが、「かくれんぼごっこ」をしてはしゃいでいるグループや、おもちゃの消防車を保育室

中走らせている子ども等、それぞれに自分のしたい遊びを見つけて楽しんでいます。

散歩先の公園には昨日降った雪が残り、子どもたちにとっては嬉しい外遊びです。水たまりに張った氷の上をスケート・薄い氷を踏んで歩く・割れた氷を空にかざす・雪合戦・雪にお絵かき等、いつもと違う外遊びを思う存分楽しみました。

今日は剣道の稽古があります。全員がきちんと正座をして緊張感が漂っています。構えや素振りの練習の後、先生の面を打つ時には子どもたちがためらいがちにしています。先生から励ましてもらいながら武道を体験しています。2グループに分かれて指導を受けますが、廊下で待つ次のグループにも剣道の真剣な空気が伝わり、静かに順番を待つ子どもたちです。

事業者コメント

福澤保育センターは横浜市緑区にあり、横浜線鴨居駅より徒歩18分、山の上の駅から離れた住宅地に囲まれた大型の保育園です。

第三者評価を受審するにあたり不安と戸惑いはありましたが、評価項目の内容を一つ一つ皆で勉強会を行いました。そして、職員と話し合いをしながらその内容を理解し、確認していくことは、職員数も多いために想像していた以上に時間がかかりました。評価項目の内容は園内研修を重ねていくことで、保育に対する共通認識を深めていきました。そしてそれぞれの項目を確認する事により保育園の役割、職員一人ひとりの仕事の責任の重さや重要さについて振り返る良い機会になったと思いますし、そのことでそれぞれの職員の思いが一つになり園全体を見直す良い機会になりました。また、職員からも「保育の振り返りができた」「事前準備の中で職員間の連携ができた」「市民セクターの方々から見られる事で自身に緊張感を感じ、見られる事の重要性を感じた」等の意見がありました。

今回第三者評価の受審結果により、この園の良さや様々な課題が見えましたが、今後その課題を真摯に受けとめ、本園を高く評価いただいた点は更により良い保育内容になる様に、全職員で力を合わせて創っていきたいと思いました。

今回受審により、保護者の方々をはじめ、このたびの第三者評価にご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。また、市民セクターのスタッフの方から「この保育園の子どもたちは一人ひとりとてものびのびしていて、園生活を楽しんでいる」というお言葉をいただきました。住宅地の中にある保育園で近隣の方々にも日常ご迷惑をおかけしていることと思いますが、これもいつも東本郷地域の皆様が温かく見守って下さっているお陰だと思ひ地域の方々にも深く感謝申し上げます。これからも地域の中で少しでも“役に立つ保育園”になれる様に努力していきたいと思います。
ありがとうございました。

社会福祉法人 久遠園
福澤保育センター
園長 福澤 洋子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
